

「関東KAIZENフォーラム2014」開催

—あたりまえ、疑う心、見直す目、
そこから始まるカイゼン活動—

関東支部

はじめに

2014年11月10日、東京都江戸川区のタワーホール船堀において、会員会社はじめ関係者約440名にお集まりいただき、「関東KAIZENフォーラム2014」を盛大に開催しました。

冒頭、石川 國雄 関東SKY運動推進本部長より開会挨拶がありました(写真1)。

「この関東KAIZENフォーラムは、通信建設会社におけるSKY活動の取組みとして昭和62年から開催され、関東支部各社の改善策の成果発表会という事で、今回で28回目となります。これも皆様の安全業務の改善にかかわる熱心な取組みの賜物であると感謝を申し上げます。

NTT東日本様におかれましては、7月に業務効率化、地域に密着したサービスの観点から従来の事業部の再編成が行われました。また、現在



写真1 石川本部長挨拶

展開中のPエリアの業務範囲を拡大していくと伺っております。こうした中で、私たちには幅広い知識と技術力が必要不可欠となっております。さらに、新しい価値創造として、光コラボレーションモデルのサービススキームが発表されました。このモデルは多様なプレイヤーがNTT東西会社様から光アクセスのサービス卸しをうけ、自社の強みと組み合わせることでエンドユーザー様に提供するものです。多様な産業ビジネスと通信を融合させた新サービスが実現可能ということで、お客様も革新的なサービスを受けることが可能になります。

このように、通信建設会社を取り巻く環境は今後もさらに大きく変わることになり、変化に合わせた仕事のやり方の見直しが必要になります。環境の変化に対応できるよう、現在の環境をしっかりと認識し、現場力の向上につなげる改善への1人ひとりの意欲を大切にしていく必要があると思います。

現場力の結集の成果が水平展開され、さらなる改善を創出することができるよう、なにより安全作業のもとに目標が達成できるように願いつつご挨拶にかえさせていただきます。]

成果発表

久保 寛晃氏 (㈱つうけん)、北村 智子氏 (和興エンジニアリング㈱)の司会により(写真2)、会員各社

の予選で選ばれた代表8サークルおよび協賛発表1サークルによる成果発表が行われました(表1)。設計指示資料作成の効率化から業務効率化物品の開発まで幅広いテーマで発表が行われ、会場からは熱心な質問が寄せられていました。

発表に続き、大会スローガンに選ばれた日本コムシス㈱の小泉 ミヨ子氏の「あたりまえ、疑う心、見直す目、そこから始まるカイゼン活動」、安全標語は㈱協和エクシオの小笠原 高久氏の「プロの目線はまず安全『はず』と『つもり』が危険の芽 その場で摘み取れ 安全作業」を参加者全員で唱和しました(写真3・表2)。



写真2 成果発表司会



写真3 標語の唱和

表1 発表テーマ概要

No.	テーマ名	概要	社名・サークル名	発表・PC操作
1	多分割式フリースタイルレジックマンホールの採用について	近年MH構築は既設ケーブルを割り込みつつ近接する構造物をかわしながら設置する難施工が多い中、今回多分割式フリースタイルレジックマンホールの採用することで安全かつ工期短縮を図り利益の向上に取り組みました。	日本コムシス(株) 多分割 で 絶対勝つ	発表：本間 一宏 操作：藤尾 寛
2	地中化工事における「架空メタルケーブル切替作業の効率化」	地中化工事における架空メタルケーブル切替作業の効率化を図るため、仮ケーブルの敷設・撤去、仮切替を不要とし、無瞬断で切り替える方法およびそれを実現する改良型（切替用）SUD-TBを考案しました。	(株)協和エクシオ 風林火山	発表：八重森 清隆 操作：森 伸昭
3	設計指示資料作成の自動化による業務効率化について	サービス総合工事における毎日の発注に対し、システム運用されている光工事の設計資料を印刷、整理し各設計者へ設計指示を行う業務。 この業務を人員作業→機械作業へ変更し業務時間の短縮・資源の節約を行い、業務改善を行いました。 なお、機械作業させるためのソフトとして、WinActorを活用し自動化を実現させました。	池野通建(株) チーム川越	発表：石塚 尚広 操作：櫻井 友之
4	品質担保！写真検査手直し全社目標3%以下達成に向けて	写真検査の手直しが多く、業務に大きな影響を与えている現状があります。その手直しを減らすため、手直し発生の要因の分析・対策の実施を行うことで、効率の良い業務の運営また、利益の創出を目的とした取り組みになります。	(株)ミライト・テクノロジーズ 熱いぞkumagaya	発表：向田 和幸 操作：薄根 祐介
5	コンデンサ充電方法の改善	通信用電力設備である整流装置には、電源品質を安定させるために、大容量のコンデンサが搭載されており、使用前(現用化前)にコンデンサに充電を行う必要があります。従来の充電方法ではいろいろな問題点が判明したため、安全に作業効率を上げるよう、コンデンサ充電方法の改善を行いました。	(株)ミライト Challenge	発表：小澤 佳祐 操作：秋山 隆道
6	トピックス調査満足率の向上	お客様満足率が低迷しており、なかなか改善が見られないため満足率（トピックス）の向上に注視しテーマ選定として取り組む事としました。	和興エンジニアリング(株) Nice to 水一戸う	発表：藤田 寿浩 操作：鈴木 陽大
7	UOW-P接続収納方法の改善	UOW-Pクロージャ接続トレイでは接続部を接続部収納箇所へ収納しているが、接続部の固定はしていないため、クロージャを収める際、接続部がトレイ内ですれ落ち、心線曲りによる故障、曲りにより浸水検知として検知してしまう事象が発生しています。また、手直し、補修が発生する事から、接続部の脱落を防止し、故障の抑制を図るために、接続トレイ内部で接続点が動かないように固定する方法を検討しました。	(株)つうけん 神奈川事業部	発表：中島 憲一 操作：畑谷 大地
8	弥彦ビル ガス監視システムの雷害対策	越後平野を代表する名山『弥彦山』の麓にある弥彦ビルは、毎年雷害により、専用線故障、架空ケーブル故障、ガス監視システム故障などが発生し多くの修理稼働等が必要となることから、ガス監視システム故障に着目し、遠隔監視ユニット（RMU）の雷害対策を実施しました。	(株)TOSYS 三条雷害対策グループ	発表：伊藤 夕麻 操作：湯川 貴光
9	【協賛発表】 雨とい配線工法用部材の開発	縦系配管のない集合住宅において雨といを利用して美観よく光ケーブルを配線でき、光サービスの提供が可能となる雨とい配線工法を実現する部材の開発	マサル工業(株) (全通協) 営業企画部	発表：染島 弘 操作：八木 長衛

特別講演

NHK野球解説者の与田 剛様から『私の野球人生 ～リーダーシップとコーチング～』と題して特別講演をいただきました（写真5）。

与田 剛様は亜細亜大学、NTT東京を経て1990年ドラフト1位で中日ドラゴンズに入団。150キロを超える剛速球で鮮烈デビューを飾り、同年日本人プロ最速記録をマークし、最優秀新人賞と最優秀救援投手賞に輝きました。その後、大リーグ

をご経験後、日本ハムファイターズ、阪神タイガースでプレーされ、引退後は野球解説者の後、2009年のワールドベースボールクラシック（WBC）では投手コーチとして大会2連覇に貢献されました。現在は野球解説者としてご活躍されています。



日本コムシス(株)



(株)協和エクシオ



池野通建(株)



(株)ミライト・テクノロジーズ



(株)ミライト



和興エンジニアリング(株)



(株)つうけん



(株)TOSYS



マサル工業(株)(全通協)

写真4 幅広いテーマでの成果発表

表2 標語入選作品

大会スローガン

作 品	結 果	会 社	氏 名
あたりまえ、疑う心、見直す目、そこから始まるカイゼン活動	最優秀	日本コムシス(株)	小泉 ミヨ子
極める品質 高めるサービス みんなの努力で 改善提案	入選	(株)協和エクシオ	宅島 尚秀
見る目 気づく目 工夫の目 皆(ミンナ)で実践カイゼン職場	入選	(株)協和エクシオ	立松 秀夫
磨く技術と 少しの工夫 知恵を形に KAIZEN活動	入選	(株)ミライト・テクノロジーズ	日當瀬 浩二
ひとりの視点 ふたりの発想 活かして共有 つなげる改善	入選	(株)ミライト	渡部 弘美

安全標語

作 品	結 果	会 社	氏 名
プロの目線はまず安全 「はず」と「つもり」が危険の芽 その場で摘み取れ 安全作業	最優秀	(株)協和エクシオ	小笠原 高久
うまくやるより確実に 早くやるより安全に ゆとりを持って安全作業	入選	(株)ミライト	永井 規仁
変わる時代に変わらぬ基本、みんなで達成 ゼロ災害	入選	(株)つうけん	三浦 宏之
今日のハットを共有し仲間のヒヤリに先回り、みんなでやれば“0災職場”	入選	(株)つうけん	大岡 正人



写真5 与田剛様の特別講演

今回、与田様の野球人生における経験をもとに、「リーダーシップとコーチング」についてお話いただきました。

厳しさとチャンスを与える

私のプロ野球人生で最初の監督となったのは星野 仙一さんでした。一言でいうと、星野監督は自らの姿勢を見せ、ぐいぐい引っ張る監督であったと思います。入団する選手たちに「俺は好き嫌いするぞ、好かれる人間になれ。」と述べた監督。そんな星野監督との野球を振り返ると、引っ張るといふより引きずられると言った方がいいのかもしれない。たとえば、ある試合でピンチに陥り、どうすればいいか考えているとマウンドに監督が現れ、私に「ホームベース、踏ませるなよ。」とだけ言い、ベンチに戻っていく。そんなことわかっていると思いながらも、その言葉で細かなことばかり考えていた私はベースを踏ませないことだけに集中することができ、その試合を抑えることができました。たしかに間違った時には殴られるような厳しい監督だったけれども、自らの姿勢を見せ引っ張っていつてくれる。時には選手のために泣いてくれる。そんなリーダーシップの方だったと思います。

物事を別の角度からとらえる

私が現役時代に出会い、後に中日ドラゴンズの監督を務められた落合博満さんのリーダーシップは星野監督とは別のものでした。中日ドラゴンズ時代、私がピンチに陥り、どう投げるかで頭が真っ白の状況の時、マウンドに駆け寄り、急に「バックネットの方を見る。」と言われてました。私が観客席にいる彼の夫人と子供をみつけた瞬間、「何時に食事の約束してるんだぞ。」とすでに過ぎた時刻を言います。私は落合さんに「すみません。早く終わらせます。」というと彼はニヤッと「頼むぞ。」とだけ述べて立ち去っていく。

それまでは調子が悪いから心も弱っているいろいろなことを考えながらピッチングをしていたのですが、まったく違うことを考えたことで余計なことを振り払い、今できることをやるという頭になり、私はその試合を抑えることができました。このように、落合さんは人と違う角度から人を動かしていく人物でした。

そのことは落合さんの監督としてのやり方にも表れていました。彼が中日ドラゴンズの監督時代、シーズンオフになった際、「俺がみんなを見たいから誰もクビにするな。」と言い、誰もクビにせず、次のシーズンでは全チームで一軍にいた選手を一番多く試合に出しました。しかし、次のオフには選手を一番多くクビにしたのです。また、従来のキャンプでは、4日、5日の練習後、1日オフだったものを、プロ野球の6連戦を想定し、練習は6日間やるという現実即したシステムを導入していきました。そのような違う角度で物事を捉え、結果を重視する斬新なプロのやり方を行う人物でした。

じっと人を観察する

そして、私のプロ野球人生で最後の監督となったのが野村 克也監督です。野村監督と言えばつぶやくイメージだと思います。実際、野村監督はつぶやきながら人を観察する監督でした。阪神タイガースの入団テストの際、他球団をクビになった選手たちが私も含め総勢30人くらい集まっていた。テスト期間は3日間で行われ、最初の2日間は調整をし、3日目に試合が行われ選手が選抜されます。2日目にほとんどの選手がランニングを終え、輪になって話しながらストレッチをしていた時です。私はまだ走りたかったため、1人でランニングを続けていました。すると野村監督に呼び止められ、「あいつら、なにやっとなや。」と言い、「体操を。」と私が言う監督は「わかつとるわい。明日運命が決まる。ライバル同士で、なんでもんな雰囲気のできるんや。わしにはわからん。」と言われました。彼らが遊んでいるわけでもなくてもその先を見る、そんな監督でした。その後、運よく合格を伝えられ、監督から「人間生まれもって不公平・不平等だけれども、時間だけは平等にある。お前に1シーズンという時間をプレゼントできるけれども、使い方をしっかり考えなさい。」と言われ、それまで3度のクビを経験していましたが改めてその言葉が心に刺さりました。私自身「時間は平等にある。」という言葉に付け加えて「ああ、でも永遠にはないんだな。」と感じつつ、その後のプロ野球人生を歩みました。

気づき、築き上げる

プロ野球を引退後、解説者という仕事をさせていただいております。

た。その後、2009年に原 辰徳監督から連絡があり、WBCに投手コーチとして参加させていただきました。その際、選手たちを見ていて感じたことがあります。それは一流の選手たちはこんなにも素直なんだなということです。そして彼らは、気づく能力と築き上げる能力が非常に高い。これは他の競技の選手や企業の方と会ったときにも感じたことでした。素直に耳を傾け、目を向け、その中で自分はどうかなのかということに気づく。何が足りないのか、何が足りているのか。気づいたことをどうやって築き上げていくか判断し、切り替えていくという能力です。

2009年のWBC、日韓戦において松坂 大輔は調子がよくありませんでした。私は原因を探し、松坂が投げたマウンドの跡を見ると、投球の調子がいい時に比べ足の幅がほんの2〜3センチ短かったのです。試合が進み、私が松坂に伝えようとしたところ、彼は試合の中で自分の足の幅を直してピッチングを行いました。

た。改めて、一流の選手は気づくのだなと感じました。

私の11年間のプロ野球人生でこういった方々と知り合えるチャンスがありました。私が野球を通して学んだことは「思い通りにならないことの方が多くけれども、それを一生懸命訓練しよう。」ということです。皆さんは、危険な現場で働いていらっしゃる方もおられると思います。どうかお体に気をつけて生活をしていただきたいと思います。

講演終了後には、当日配布されたフォーラムの要旨集に当たりマークのついた参加者3名に与田様より直筆のサイン入りボールが贈呈され、会場は大いに盛り上がりました(写

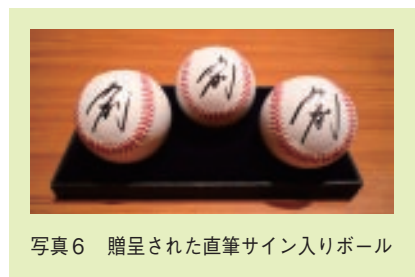


写真6 贈呈された直筆サイン入りボール

真6・7)。

表彰式

特別講演に続き、発表9サークル、標語入選者(最優秀2名)に対し、石川 國雄本部長から感謝状・副賞の贈呈が行われ、会場は大きな拍手に包まれました(写真8)。標語のとおり、プロ意識を持って決められたルールを守り、周囲を見直し危険の芽を摘み取って無事故で業務を進めていくことを誓い合い、関東KAIZENフォーラム2014は盛会のうちに終了しました。



写真7 直筆サイン入りボールの贈呈



写真8 発表者記念撮影